

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 コーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 木曾の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&kyosyoQd=2192600217-00&ServicQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①現在、看護師4名、准看護師2名在籍し、医療体制は充実しており、介護職員とは違う視線で利用者様と接し、早期に利用者様の不具合に気付ける体制になっています。又、リハビリも増加してきています。
②自然環境に恵まれた立地を活かし、積極的に自然にふれあい敷地内を自由に散策しています。
③尊厳に対する思考を強く持つ事が浸透し、利用者様に寄り添いながら実践しています。利用者様に出来る事を積極的に探し自主性を見つける。敷地内庭の剪定、家事手伝い等形態は様々ですが、試行錯誤しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた広い敷地内を散歩する事を日課にし、ウッドデッキで景色を見ながらお茶を楽しんだりしている。料理、掃除、洗濯、庭仕事等、利用者の出来ることは積極的に取り組んでもらい、楽しみながら心豊かに暮らせるよう支援している。利用者は、居室で食事をする人、犬と一緒に昼寝をする人、思いついたことを自室の色々な所に書く人、数独パズルに夢中になる人など、一人ひとりの希望に沿った個性的な生活を送っている。看護師を増員し、利用者の健康管理に力を入れている。利用者が安心して生活する事は家族の希望であり、家族との信頼関係に繋げている。職員は働きやすい環境の下で、利用者の尊厳を守る事を意識したケアを心掛けている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様尊厳を尊重し、尊厳を生かしたケア実践のための工夫・提案や、必要に応じて家族の協力もお願いしている。	毎月の会議や業務中など色々な場面で話し合っている。施設長・管理者は理念を時には立ち止まって考えるように指導し、職員は理解し、尊厳を尊重するケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により、現在では地域との接触は避けています。今後、状況を鑑みながら進めていきます。	コロナ禍以前は、認知症カフェの開催、サークル活動や保育園児等の訪問があった。現在は地域ケア会議や布遊びの会の地域のサークルが再開され、参加して徐々に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生ボランティアや校外学習などの学校行事を積極的に受け入れてきましたが、コロナの影響で一時中断しております。状況次第で再開予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は一時中断しております。社内においては、毎月実施し、その内容を記した書面は関係者に公開しています。	2カ月ごとに事業所内関係者のみで行っている。内容を運営推進会議関係者に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議も6月から開催。7月8月上旬はワクチン接種により参加出来ていませんが、それ以降は参加し地域情報の収集に努めています。	市担当者に事業所の実情報告をしている。色々な情報を得たり、利用者の紹介を受けたりすることもある。事業所が作成したコロナワクチン接種計画を行政が参考にしたこともある。生活保護の方の受診など相談しながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月実施し、疑わしい行為は、皆で共有し検討している。スピーチロック等の見極めは難しく、介護者の心の持ち方により変わる事もしばしば見られる。又、そのケースを全員に伝え共通認識として捉えている。	言葉による拘束や玄関施錠について等、具体的な事例を取り上げて毎月身体拘束委員会で話し合い、職員会議で全職員に伝えている。職員は、利用者への思い込みはないか等振り返りながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状は、外部講師等の勉強会は実施していません。委員会等での社内研修として、出来る事を粛々と行っている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に、成年後見制度を利用している利用者様が在籍していたこともあり、職員に制度の認知は出来ていると感じる。又、町より資料を頂く事があり、全員に周知する様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・ご家族様と本音で膝を突き合わせて話し合いをし、その上で納得して頂いた状態で契約締結を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様や利用者様との関わりを大切にし、信頼関係の構築に努めている。毎月担当職員が利用者様の様子を手紙に書いて郵送したり、毎月のお便りも明るく楽しい雰囲気が伝わるよう工夫している。	日々の写真を多く載せた通信と担当職員の手紙を毎月送っている。別棟の面会室で面会している。面会時や電話で意見を聞き、ちょっとした心配事にも丁寧に対応して信頼関係を築くことに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り、相談室を設け、話し易い雰囲気や機会を作り関係を維持するよう心掛けている。	施設長や管理者は気軽に話しやすい雰囲気を作り、いつでも意見や提案を聞いている。勤務シフトや配置、急用による休暇の相談を受けたり、備品やレクリエーション用品の購入などの要望があり、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士のバランスに配慮し職員配置をしている。指導体制が行き届くように配慮されており、職員の意識向上に繋がるよう工夫されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ・資格取得の支援・研修参加の支援を行い、積極的に取り組める体制をとっている。直近では、基礎研修1名、実践者研修2名を指名し受講。また、個人でも実務者研修を2名受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、他社様との交流は控えています。状況を考慮し再開したいと考えています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	始めに利用者様の話を傾聴し、安心して暮らせる雰囲気造りを基本的な考えとし、早い段階で方向性を定め不安を抱かせない。又、「何故」を繰り返して進歩していきたいと考えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に利用者本人様についての情報を引き出す上で、自然な流れで意見や要望・希望などを細かく聞き出す為に、家族様に多く電話等により収集するよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には、主に家族様のサービスに対する希望・要望が表面化することが多いが、それだけを鵜呑みにせずサービスを受けている利用者様の様子等から適格に判断するよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側思考介護ではなく、利用者様と共に 行う姿勢をみせ、過ごせる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人様を支援する者としての関係性を保っていけるよう、ご家族様とも互いに率直に意見交換できる関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外部接触が困難な状況です。又、外出が困難な方もみえる為、馴染みのものを出来るだけ施設生活の中に取り入れる工夫をしている。	入居時の情報や日々の会話から馴染みの人や場所を把握している。友人の訪問には別棟の面会室を用意している。職員と実家を見に行ったり、家族の協力を得て馴染みの美容院に行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活暦やADLに応じ、利用者同士の関係性が生まれやすい環境造り、又はイベント、作品作り等を常に検討している。座席配置などの工夫もしている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、連絡が出来る様に記録は残している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のこれまでの生活歴や日々の生活の中での何気ない会話や表情、動作等から暮らし方の希望、思いや意向を探っている。それらを職員同士が検討共有し、ケアへ反映していけるよう努めている。	生活歴や日々の会話、独りの時に話を聞き思いを把握している。申し送りノートに記録し、会議で話し合い情報を共有している。普段と様子が違う利用者について寂しいのではないかとの意見があり、職員がより多く話し掛けるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様を始め、家族様からの聞き取りを参考とし、これまでの生活歴や生活環境、本人様の趣味や趣向等を把握出来るように努めている。また日常生活の中での会話等からも情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方を把握する為、24時間シートを作成している。月毎にADL、モニタリングのチェック表を活用し、本人様の現状把握にチームとして連携し努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当職員を設け、月毎に開催するユニットでの会議、サービス担当者会議でケアマネージャー、介護職員が家族様、本人様の思いや意見を取り入れた介護計画書の作成に努めている。	担当職員が毎月モニタリングを行い、3カ月毎に見直し、利用者・家族の意向を確認して、担当者会議で話し合っている。状態に変化があった時は計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々にケース記録を作成し、ケアの実践状況、気づきや工夫を詳細に記入している。また記録とは別に独自の申し送りノートや業務日誌を活用し、職員同士が情報の共有が行えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや生活歴に応じ、馴染みの活動機会の提供(戸外での剪定・畑・花壇・草取り)(戸内での裁縫や洗濯・料理などの家事)を積極的に取り入れるようにしている。職員の思い込みを無くすために、定期的に話し合いの場を設けている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずまは現在、使用を自粛しています。状況を考慮し、今後、進めていきたいと考えています。施設利用者は、三密を回避し利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医以外でも本人様のかかりつけ医の往診も一部で実施されています。家族様の希望に沿って対応しています。基本的にはご家族様対応で受診に対応して頂いています。	本人・家族の希望でかかりつけ医を決めている。施設の協力医以外の受診は家族に依頼している。事業所の様子等を口頭か書面で伝え受診後は結果を確認している。必要時、看護師が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療体制が整ってきました。(看護師4人・准看護師2人)日々の生活の中で気づいた情報を医師にケア記録、バイタルリンク(医師、家族、職員が同時に意思疎通できるタブレット端末)を導入し、本人様に適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院する際は介護サマリーを作成し、病院関係者へ出来るだけ詳細に利用者の情報提供を行い医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様の意思表示が行える段階から終末期の過ごし方について本人様と家族様で話ができるよう家族様に働きかけている。また、施設の性質上、医療依存度が高くなるにつれ対応が困難になっていく旨を、入所前に説明することで本人様や家族様にとって具体的に捉えるきっかけとなるよう努めている。	契約時に重度化や終末期のあり方・看取りについて説明し、意向を確認している。早い段階から話し合いを持ち、事業所で出来ることを説明して方針を共有している。医師の助言で医療依存度が高くなると事業所での看取りは困難であり、入院や老人保健施設に移っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、各ユニットに配布してある。緊急救急対応等の勉強会を看護師・ケアマネを中心に施設内にて開催し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災委員会を設置し、施設全体で避難訓練や消火器の取り扱いの勉強会を行っている。また災害時には地域より協力が得られるよう、自治会にお願いをしている。	年2回夜間想定を含めた避難訓練をし、水・食糧などの備蓄も完備している。事業所裏山が土砂災害警戒区域となっている為、自治会からも行政に対策要請をするように依頼した。事業所独自の避難訓練等の対策はされていない。	事業所独自の避難対策を考えるとともに、地域との協力体制を築くことを期待する。

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての当然の配慮、介護側の有利な立場の悪用等、利用者様の尊厳を大切にすることを職員会議やホーム会議等で職員同士で徹底している。	職員会議で、一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について話し合っている。居室入口に暖簾をかけ室内がのぞかれないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望については、可能な限り「ひとまずやってみる」という意識で温かく見守りの精神でケアの工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側のルールを優先するのではなく、共同生活のルールを遵守しながら職員同士が連携し業務をおこなうことで利用者個々のリズムを尊重できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と同じ目線で、洋服の管理・選択をしている。季節感のある洋服を選択して頂く事で季節を感じて頂く。この感性が利用者様にも職員にも必要であると認識しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事参加等の支援に力を入れるとともに、食事形態の可能な範囲で、普通食に近づけていけるよう努めている。	献立と食材は外部業者に委託している。包丁を使って食材を切る、盛り付けをする、配膳や食器洗いをする等利用者の出来ることを一緒にしている。五平餅やクレープを作ったり、行事には寿司や弁当を取って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味の好みや摂取癖の把握に努め、個々に合った栄養摂取や水分確保を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様の身体状況に合った方法で口腔ケアを実施している。又、定期的に口腔診療も、希望者や必要な方には受診頂いています。歯科医師による口腔ケアの勉強会も取り入れようと考えています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を職員が記入し、排泄パターンの把握・排泄状態の情報の共有をし、適宜自立に近い排泄ケアについて職員間で話し合っている。	排泄パターンを把握し、声掛けてトイレに誘導している。車椅子の人も自力で便座に移乗したり、自分でパンツを履き替えたりするなどリハビリも兼ねた試みをしている。布パンツに移行出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンの把握に努め、適宜運動や腹部マッサージ等を行い、便秘予防に気を使っている。重度の場合は医師と連携し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に対する利用者様個々の要望を調査し、共同生活の中でも極力個人の意思を尊重できるような個人入浴を意識している。	一人ひとりの好みを知り、その日の気持ちや健康状態を配慮して、入浴順や湯温に対応している。話を聞いたり、ゆず湯にしたり、ゆったりと気持ちよく入浴出来るように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の妨げにならない程度に、昼寝や静養を行ってもらっている。また夜間の睡眠状況について職員間で申し送りなどを通して共有し、「本人様にとっての適度な休息」となるよう話し合いをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬局から提供される薬情報用紙に目を通し理解に努めている。また、看護師や先輩職員は後輩職員に対し適宜助言や指導を行っている。服薬管理は2名の看護師で実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初期対応や日々の生活から把握されていく本人像を尊重し、出来る事・やりたい事に取り組める機会を積極的に提供している。また、家事参加や庭木の手入れ・畑・裁縫など日々の生活の中でのやりがいの提供にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍外出は極めて困難な状況です。その分立地条件を活かして敷地内での戸外活動は日常的に取り入れている。また、家族様の理解・協力を得て、同一敷地内の面会室迄お越し頂き、変化をもたせている。	自然に囲まれた広い敷地内を散歩する事を日課にしている。ウッドデッキのテラスでお茶をしたり、外に置かれたベンチでくつろいだりしている。家族の協力を得て実家に行く人もあり、コロナ禍であっても出来る限りの支援している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関して、当施設では持って頂いていません。必要な時に必要な物を購入している。高価な物品は家族様に相談の上購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望を受け、相手方の了解を得られた場合は電話での通話を提供している。手紙の交換についても投函は職員が代行するものの、自由に行っていたいっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には多種多様な利用者様がおられる為、刺激的な色遣いは避け、利用者様皆さんが作成した季節のポスター等を掲示するよう心がけている。案内表示は大きく分かり易く表示掲載している。	温度や湿度、換気に注意し、利用者と一緒に掃除や消毒をして清潔にしている。トイレなど大きく分かり易く表示し、落ち着いて過ごせるように色彩等に注意している。廊下には行事写真や利用者が書いた塗り絵、みんなで作った季節のポスターが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過度に交流を推し進めず、自発的な交流を促し、自ら居場所を作って頂く様に仕向けている。難しい場合は、職員が入り心地よい空間を作り込む様に心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の個性を活かし、「自分の家」として考えて頂き、自由に模様替え等もやって頂いている。自分らしさを表現できる物品を模索しながら、職員は出来る範囲で対応している。	テレビやマッサージチェア等が持ち込まれている。思い出の作品や写真を飾る人、生花・造花を部屋いっぱいに飾る人、自作俳句集を置いている人等、個性的な居室となっている。動線に注意し、床にマット、手すりにスポンジを巻いて、安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様によって、出来る事・理解度は様々で有る様に、一人ひとり環境が違って当然であります。極力、自立した生活が出来る様に、個別対応とし環境造りをして行きたいと考えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 iコーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 揖斐の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&kyosyoId=2192600217-00&serviCeId=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年11月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然豊かな環境で、その自然に最大限触れながら日々を過ごす。地域密着ならではの環境を特色とし、この地域に根をはる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の皆様とのつながりが軽薄になっております。事業所としては、近隣にご挨拶を申し上げ対応している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積み上げたキャリアを、地域の方にご理解頂く事も重要な任務だと感じております。現状は、対外的な動きは自粛しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月以降の動きとして、運営推進会議は自粛しております。書面において、現状報告のみの情報伝達となりますが、実施させて頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内の施設連絡会も自粛しておりましたが、6月から再開しました。7月8月上旬はワクチン接種により不参加としましたが、それ以降は参加しています。他施設の職員や町福祉課の方とも連絡を取り、情報共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月実施しており、具体的案件を取り上げ委員会にて協議しています。玄関施錠は場合により行う事も有り、その場合は利用者様にも説明するように心掛けている。普通ではない時はホーム会議にて水平展開をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、言うまでもなく、計画的に発生するものではない。日常的に行われるものでもありません。日々の中で起こる様々な行き違いの部分も多々ある。看過出来ない出来事を相互牽制しあい、事案を見直すように努めている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援・成年後見制度に関する研修は、残念ながら現状は出来ていません。管理者が町からの資料等を職員に都度対応。今後は、職員にも研修が必要と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・契約解除の際、個々の立場を十分に理解するようにしている。ご家族様の様々な理由(経済的な不安、重度化に伴う機器等の負担等)の話し合いを実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で、対外的な接触は極力避けています。ただし、運営推進会議は社内において実施しており、情報公開として関係者様には文書をもって公開しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1度実施して、施設の現状や改善案を話し合い、協議している。また、職員の要望や意見を代表者が聞き、相談室を設けて随時検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成者は職員の希望休などを事前に聞き、職員が少しでも働きやすい環境になるように整えている。職員のやりがいとして、各種試験にも取り組む意志が芽生え、資格取得支援規定を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る範囲でジョブローテーションを実施している。若手又は経験が浅い職員に対しては、ベテランをあてる等の工夫を凝らしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は出来ていません。町内の施設連絡会に定期的に管理者が参加をすることで、地域や同業者と交流できる。研修も開催され、職員にフィードバックし、スキル向上に努めている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム会議において、初期段階で入居者の担当者会議を開きケアプラン作成をしている。その時点で、現在の入居者のニーズをくみ取り、本人様要望に沿う様に計画を立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成にあたって、面会時や通信を通じて、入居者の現状を伝える機会を設けている。不安や要望等を、その時点で家族様より拝聴し支援に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先入観に捉われず、一つの支援やサービスにも拘らず、介護面や医療面および、ターミナル期まで備えた福祉の見方が出来るように、職員は心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と時間をかけて関わって行く中でより本人を知ろうとする姿勢を持って、「毎日を共に暮らす」を信念としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでも、家族だけでも介護は困難である。職員と家族が一体になって初めて、本人にとって最高の介護になります。その意識を持ち、行動しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍、外出は控えています。しかし乍ら、同一敷地内に設置した客室で、友達等と談笑頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立せず、同じ生活の場を共有できるように食事を共にし、レクリエーションや体操、皆さんで出来る共同作業など、そのような時間を提供できるように支援している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様との関係を持ち、今後のフォローなどを出来るだけ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご意見又はご家族の要望等を傾聴して、職員が可能な支援をさせて頂いている。日々の行動からその方の特徴を掴み出来るだけ本人の要望に沿ったケアができるよう、心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の馴染みの生活や環境を本人若しくはご家族様から傾聴して、それをもとにサービスに工夫をしたり、援助をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者の特変及び、環境等の変化の気付きを意識している。利用者様の潜在能力を発掘し活かす。その様な気付きを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様が今までなされてきたこと、馴染みの生活を崩さずに本施設で暮らして頂けるよう、本人様及びご家族のご意見を取り入れ、チームにて考え、ケアマネジャーがケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ひとりひとりの動きを記録し、タブレット端末にて記録。マンネリ化しない様に努めている。本人様の訴えや言動を記録に落とし込み、日々の暮らし等を誰もが把握できるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務の内容に固執されるのではなく、本人様の要望やご家族様の意見を取り入れ、他施設を含め柔軟な支援を臨機応変に展開する事を心掛けている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との接触は避けています。しかし乍ら、「しずやま」という施設が隣接しており、自然を感じて頂く等のケアを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週月曜日に主治医より訪問診療を行っています。入居者の日頃の特変を申し送り、医療面のケアを連携して行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師4名准看護師2名在籍し、医療は充実してきた。入居者の特変に気づいたら、看護師及びケアマネジャーに報告して、必要時にはかかりつけ医と連携してケアにあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入退院する際は、看護サマリーを作成して連携を病院側と施行している。また、入院中はご家族様との連携を図り病院での様子を確認するよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者がターミナル期を迎えた場合、町内の看取りケアの可能な施設若しくは病院と連携している。また本人様・ご家族様の意向を尊重し、後悔のない最後を迎えられる様に方向性を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変について、職員(看護師・ケアマネ・所長など)の報告順や、救急搬送の旨のマニュアルを作成して周知徹底している。それをもとに実践・活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時想定避難訓練を実施し、職員、利用者の危機意識が高まっている。常温での非常食の確保、また、自家発電も現在検討している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室などに簾を使用し、入居者それぞれの個人の空間を大切にしている。時間を制限せず、入居者様の状態に応じて、ルールの中で共同生活を楽しんでいただいている。人格を尊重した言葉かけを意識する様に勤めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話を大事にして、徐々にコミュニケーションを構築して、本人が得意な事等で自己決定や選択の判断がしやすい環境を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活という観点はあるものの、本人様の訴えや家族様の助言をもとに意見を尊重して要望を聞き入れ提案していこうと考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に季節や気温の温暖差に合わせて、衣類の選択をして頂くようにしている。また、家族様の意見も取り入れ、本人様が着たい衣類を着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後、入居者様のご厚意で、食器拭きやお膳拭きを手伝って下さります。職員と入居者様が連携して生活上でそれぞれの役割を形成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記録するとともに、毎月体重測定を実施している。入居者の特変あれば、インアウトチェックも行い、改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケア介助を行っている。また定期的に訪問歯科診療を取り入れ、口腔ケア方法の指導や、各入居者の口腔現状を管理されている。今後は歯科医師による職員に対し勉強会も開始していく方針である。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様のADLや排泄状況に関して、職員同士で話し合い、適切な排泄パターンを見出している。また、QOLの向上に向け、排泄の失敗を減らせるような支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が便秘予防のための食材の成分等を理解して、入居者等に適切な声掛けをしている。また、排泄状況を確認し、看護師に報告し、必要時には医師の指示のもと服薬を通じて排泄コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様のその日の気持ちや健康状態を考慮して入浴の順番を変更したり、本人様の気持ちを尊重して個人欲を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者は、出来るだけ眠剤を処方せず、日中の活動量を増やし、夜間の睡眠時間を確保できるよう、取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の使用や変更点があった場合、看護師と連携して薬剤調整をしている。介護職員も服薬管理の大切さを認識し、変更があればチーム内で共通認識としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により外出は控えています。敷地内、及び近所の散歩に時間を掛ける様に心がけている。又、女性陣は、食後の食器拭き、おぼん拭き等、男性陣は模様替え等のお手伝いもやっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出はしていません。敷地内にてリハビリを兼ねて散歩を繰り返す実施。天気の良い時には、おやつも時として食して頂いています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設ではお金を持って頂いていません。必要なものか否かを職員同士で話し合い購入している。基本的には本人様と相談して、高価な物は家族様に連絡報告し随時購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの郵便代行や電話のご要望には応える様にしている。又、毎月家族様へ向けたコメント文を通信し、ご本人様の様子や過ごし方特変などを記入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は比較的に地味な色合いで落ち着いた雰囲気を出している。廊下にはイベント時の作品や写真を掲載し、季節感を意識した雰囲気作りを意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席、食事席に関して、気の合う入居者、話が好きな入居者など、席の配置を考えている。また、入居者の特徴を考え、考慮した配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内配置に関しては、本人様が落ち着いた様な嗜好を考え配置をしている。また、家族様とも話し合いを通じ、随時適応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者がより分かり易く自室だと判断できるように、大きくフラッグ状に名前を記入し、一目瞭然とした工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 コーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 長良の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&E_gyosyoQI=2192600217-00&ServicQI=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現状はコロナの影響で接触を避けています。その分日常生活の中で、生きがい・やりがいを感じて頂き尊厳を尊重し、出来る範囲での家事活動を提供し関心のある話題等の提供も行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で出来ていないのが現状です。今後のコロナの状況を勘案し、積極的な取り組みを考えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献としての発信は難しい部分も有ります。認知症のご理解や支援方法をウイズコロナとして改めて確認し進めていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年2月以降、運営推進会議は、施設職員のみで実施しております。会議内容は、書面にて、関係各位に郵送させて頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内施設連絡会の開催が本年6月より再開しましたが、ワクチン接種の日程と被り2カ月程欠席致しましたが、7月中旬以降は積極的に参加しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、勉強会を行い職員の身体拘束に関する知識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、勉強会を行い職員の虐待防止に関する知識を高めている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者様には、制度に基づきご家族様または、関係者様と詳細を打ち合わせ取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書及び重要事項説明書に基づき、納得・理解して頂けるまで説明をし、契約を行っている。又、ケアマネによる現場説明も極力実施しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・家族様等の意見を聞き、不満や不安がある場合、解決に努めている。又、コロナ禍につき社内において運営推進会議を行い、関係各位にも書面にて公表していません。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ホーム会議を行い、職員の意見交換の場を設け、意見交流を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に極力寄り添い、勤務体制を行っている。又、業務態度や実績を考慮し、賞与査定、定期昇給に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ジョブローテーションを実施し、時間帯による仕事内容の変化を理解頂いている。日常業務では、経験や知識がある職員が中心となり、新人職員の指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時節柄、他同業者との接触は避けています。その分、社内において、勉強会を充実させている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の日常生活を注意深く観察し、いつもと違う行動や異変があれば、本人様のお話を傾聴し、それを職員の中で検討解決に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話による家族様からの聞き取りで、性格・生活歴・要望・不安などを聞き取り、チーム内で検討支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが中心となり、担当者会議を行い、他のサービス機関が必要なのかどうかの話し合いをしている。必要な場合、他のサービス機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が日中生活の中で、自立・自己決定・自己選択が行えるよう、本人様に選んで頂く様な流れを作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話による意見交流を行い信頼関係を築けるように努めている。家族様の要望があれば応えるように努め、必要に応じ家族様の協力も得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は難しい状況ですので、馴染みの場所等への訪問は実施出来ていません。昔の写真、思い出の記録等で本人様と気楽に話せるような雰囲気を作り込む様に心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が意見交換ができるよう、ホーム内、又は敷地内にてレクリエーションに参加して頂き、交流を深められるよう支援している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、定期的に連絡をし、家族様の不安等があれば話を傾聴し、相談支援ができる体制に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、様子や行動を観察し、いつもと違う行動などある場合は都度話し合いを行い、本人の訴えを傾聴し解決に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やサービス利用の経過等を本人様・家族様等から話を傾聴し、個性を活かした生活が過ごせるよう支援をしている。又、チーム内で認識を統一する様心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方等の行動を記録し、職員同士情報共有しています。又、「利用者側立場に立って」を考えながら実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議にて、担当者を中心に会議を行い、ケアマネ・看護師・介護職員とで検討し介護計画を作成している。必要に応じ医師との連携を図る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・行動をタブレット端末にて記録し、状況変化があれば都度話し合い、介護計画書に反映している。職員同士情報共有も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化があれば都度話し合い、必要に応じ本人様や家族様とも話し合いを行い、場合によっては他施設も視野に入れて幅広い見識を持つ様心掛けている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時節柄、介護施設しずやまは現在機能をストップさせています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療は継続的に実施している。地域医療連携医師も随時訪問頂いている。歯科医師による訪問診療は7月から再開しています。今後も医療機関と連携を強固にしていく考えである。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師4人・准看護師2人(いずれも夜勤者含む)在籍しており、医療に関してかなり充実。今まで以上に細部にわたり利用者様に対応出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時などの際、ケア記録をもとに医療機関担当者との協議し、情報交換を行い連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師との連携を行い早期発見に努め、重度化を防ぐ。また、家族様の想いを拝聴し、医療関係者様と相談を行い、家族様に説明同意を得て終末期支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時に備え、看護師を中心に研修会や日々の業務の中で緊急対応(特に夜間時の様な手薄な時間帯)に対して意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に、シュミレーションを実施。当施設は水害は考えにくいエリアですが、土砂災害地域で有るため、土砂を想定した対策を特に強化したい。地域の方々と関わりを持つ様に心掛けている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自宅ととらえ、プライベートの確保、及び、個人の尊厳を尊重している。スピーチロックの様な身体拘束には特に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様への声掛け等で、ご本人の思いを探り、極力、個人の意思決定を促す様に心掛けています。出来る事はお手伝い頂き、分担制にして責任をもって頂く事で自己決定しなければいけない環境を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のルールの中で、自由にお住まい頂く。施設側の一方的なルールを押し付けない様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪等、本人様・家族様の要望があれば行い、定期的に本人様同意で散髪を実施する事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に合わせ家事を分担提供し、声掛けを行い職員と一緒に食している。食事の準備や後片付けも複数の利用者様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の診断を考慮し、入居者様に合わせ食事形態を変え提供している。水分補給も同様、指示に従い、十分注意している。飲食の内容は介護記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合った口腔ケアを、毎食後実施している。又、義歯は夕食後に洗浄を行っている。医師による口腔ケア研修を定期的実施出来る様に計画する。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の把握・コントロールの為、排泄チェック表を利用し、記録しています。又、定期的にトイレ誘導も併せて実施しています。自主排泄を目指します。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な運動を奨励し、実施している。個々の体調管理も考慮し、排便チェックも完全実施している。重度の場合は担当医と連携し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴して頂けるような状況造りを常に考え、個人入浴を楽しんで頂いている。又、入浴の際、皮膚の状態・特変の確認をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理は24時間実施し、居室等で快適に過ごされるよう施行している。状況に応じ、ベッドで安心して休息して頂いている。居室に閉じこもりを避けたり、昼夜逆転現象等にならない様声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬剤情報を共有し、理解・服用をしている。棚、BOXによる服薬管理も実施しており、変化がある場合等は医師・看護師に報告を行い、指示のもと支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの性格・力を把握し、家事手伝いに取り入れている。利用者様の出来ること出来る事等の見分けも大切に有り常に意識している。現状はレクリエーションは行っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は避けています。その分、敷地内、居室内での運動を心掛け、又、近隣を職員との散歩回数を増やしている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設が行っている。入居者様の希望等があれば、必要に応じ検討をし購入をしている。大きな買い物はご家族様に電話にて都度確認し、極力、利用者様の意向に沿うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望がある際、職員が寄り添いお手伝いをしている。又、必要なものは必要な時に購入し、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室等の飾りを、季節に合った飾り付けを心がけている。カーテン・エアコン等を使用し、快適に過ごせられるよう配慮している。皆で作った作品を掲示したり、品評会も実施したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、一人ひとりがゆったりと過ごせられるよう、配慮をしている。食事の席はコロナ対策をしながらも、気の合う方同士になれるようしている。9人の中でも小グループになってしまう事もある。注視している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の思い出の物や、家族様の写真などを飾り、その人らしい居室作りに取り組んでいます。寂しい感じの居室で、身寄りが少ない場合は、本人様より話を聞き、取り入れ出来るものは取り入れするようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ・お風呂場等に表札を設置し、入居者様に分かりやすいようにしている。夜間時、転倒リスクが高い方には、センサーを設置するなどを行っている。任せ切りにしない様に心掛けている。		